

だい かいさつぼろしじりつしえんきょうぎかい
第 3 8 回札幌市自立支援協議会

ぎ じ ろく
議 事 録

にちじ ねん がつ か きん ごご じかいかい
日時：2022年6月10日（金）午後6時開会
ばしよ かいきい しよう
場所：オンライン開催（Zoom使用）

1. 開 会

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） それでは、定刻となりましたので、第38回札幌市自立支援協議会を開始いたします。

まず、事務局より皆様へ事前説明を行いたいと思います。本日はオンライン開催となりますので、各議題で報告をいただいている間、ほかの音が入ることを防ぐため、お聞きになっている方はマイクをオフにさせていただきますようお願いいたします。また、会議中はカメラをオンにし、皆様のお顔が見える状態で進めてまいりたいと思いますので、ご協力のほどをどうぞよろしくお願いいたします。

次に、札幌市障がい保健福祉部で人事異動がありましたので、ご紹介をさせていただきます。

今回、新しく企画調整担当課長に着任いたしました児玉から、一言、ご挨拶させていただきます。

○児玉企画調整担当課長 皆様、こんばんは。

今年4月に札幌市保健福祉局障がい保健福祉部障がい福祉課企画調整担当課長に着任いたしました児玉でございます。よろしくお願いいたします。

本日は、お忙しいところを全体会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

皆様方におかれましては、それぞれの議題につきまして、積極的にご意見いただければと思います。皆さん、よろしくお願いいたします。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） では、続きまして、委員の出席状況についてです。

皆さんに届いていると思いますけれども、年間活動報告書の213ページ、一番後ろのページに委員名簿を載せてありますので、そちらをご覧くださいませでしょうか。

今回、委員の交代などで初めて全体会に参加される方が5名いらっしゃいます。順番にご紹介させていただきたいと思います。

まず、お一人目ですけれども、名簿の上から1番目の就労支援推進部会長であった重泉委員の後任になります社会福祉法人札幌報恩会就業・生活相談室しんさっぽろ所長の荒井委員になります。

次に、名簿の上から3番目の手稲区地域部会長の西村委員の後任となります医療法人協生会相談室あんど管理者の伊西委員です。

次に、名簿の上から5番目の南区地域部会長の山田委員の後任となります社会福祉法人北海道ハピニス通所事業部係長の奥田委員です。

次に、名簿の上から7番目の子ども部会長の北川委員の後任となります社会福祉法人妻の子会地域支援部長の金澤委員です。

それから、5番目に、白石区地域部会長であった齋藤委員の後任となります特定非営利活動法人きなはれ就労継続支援B型事業所ヨベル所長の常盤野委員になります。

本日、北海道難病連の増田委員がご都合によりご欠席となっております。

それから、まちづくりサポーター代表の山田委員が遅れておりますけれども、こちらに連絡が入っておりませんので、到着次第、ご参加されると思います。

それでは、ただいまご紹介させていただきました方々から、簡単に結構ですので、一言、ご挨拶をいただければと思います。

まず、荒井委員、よろしいでしょうか。

○荒井委員 就労支援推進部会の部会長になりました就業・生活相談室しんさつぽろの荒井と申します。よろしくお願ひします。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） 伊西委員、よろしくお願ひします。

○伊西委員 医療法人稲生会の中にあります相談室あんの管理者をしております伊西と言ひます。お会いしたことがある方もいれば、初めましての方もいるのですけれども、よろしくお願ひいたします。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） 次に、奥田委員、よろしくお願ひいたします。

○奥田委員 北海道ハピニスの中で通所事業を担当しています奥田と言ひます。南区の山田の後任として、今後、皆様と活動をご一緒させてもらえたらと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） 金澤委員、よろしくお願ひいたします。

○金澤委員 子ども部会の金澤と言ひます。これまで北川が務めていましたけれども、私も事務局長として一緒に行っていました。今回は、部会長として参加をします。よろしくお願ひいたします。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） 常盤野委員、よろしくお願ひいたします。

○常盤野委員 白石地域部会の常盤野です。齋藤さんから引き継いで部会長を務めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） よろしくお願ひいたします。続きまして、資料の確認をしたいと思ひます。皆さんに届いているかと思ひますけれども、本日の次第の真ん中下辺りに配付資料が記載されております。

まず、資料1として、令和3年度札幌市自立支援協議会年間報告書という冊子になります。それから、資料2として、自立支援協議会各区地域部会からのお知らせというA4判の資料です。資料3として、札幌市自立支援協議会好事例集の作成についてという資料があります。資料3は、これまでの札幌市自立支援協議会の成果としてと一番上に書いてあるものになります。資料3に関連しまして、好事例集作成フォームも一緒に入っているかと思ひます。資料4としまして、資料4-1と右肩に記載してある地域生活支援拠点検証委員会の設置についてと、資料4-2の札幌市自立支援協議会組織図があるかと思ひます。資料5として、札幌市自閉症・発達障がい支援センター、主な活動報告と令和4年度方針という資料になります。

資料は大丈夫でしょうか。

本日、議事録作成のため、札幌速記事務所の方が参加しております。

本日の協議会の議事録は、後日、札幌市のホームページ上に公開する予定となっております。ご発言の際には、情報保障の観点から、所属とお名前を述べられてから、なるべくゆっくりご発言いただくと助かります。

また、差し支えなければ、オンライン開催の様子を写真に撮らせていただきまして、開催時の様子として札幌市役所やワン・オールホームページに掲載させていただきたいと考えております。写真には写りたくないという方がいらっしゃいましたら、あらかじめ、挙手にて申し上げていただければと思いますが、いかがでしょうか。

皆さん、大丈夫でしょうか。ありがとうございます。

それから、傍聴されている方々へのご連絡ですけれども、傍聴されている方々につきましては、ご発言ができないことになっておりますので、送付しております意見参加シートにご意見、ご要望をご記入いただきまして、後日、障がい福祉課に郵送あるいはメールでご提出いただければと思います。皆様の貴重なご意見を今後の会議運営に反映させていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、議題に移らせていただきます。ここからは、近藤会長に議事進行をお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

2. 議 事

○近藤会長 昨年度より会長を仰せつかっております近藤です。どうぞよろしくお願いいたします。

まだまだコロナ禍が続いております、思ったような活動が難しい状況もありますが、少しずつ対面の行事等も増えてきていると思っておりますので、ぜひ活発な活動につなげていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日、次第に沿って、報告、協議を行う予定でおります。報告や協議ごとに、ご意見、ご質問をお伺いするような流れで進めていきたいと思っております。委員の皆様におかれましては、今後の部会の活性化のために、様々なご意見等を積極的にいただけますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、各部会の報告から始めていきたいと思っております。お手元の年間活動報告書の順番に沿って、各部会から、運営で工夫していること、困っていることの報告を中心をお願いしたいと思っております。時間が限られておりますので、申し訳ないですが、各部会3分程度をめぐにご報告をお願いしたいと思っております。画面の共有もされているかと思いますが、早速、中央区地域部会からお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○妻倉委員 妻倉です。よろしくお願いいたします。

それでは、中央区地域部会の報告をさせていただきます。

令和3年度の活動報告ですが、地域部会としては、12月に1回開催したのみになって

おりますので、令和3年度の活動報告というより令和4年度の予定についてお話しさせていただきます。令和4年度は、5月から定例会を再開しています。これは、リモートによって行っています。5月は、児童虐待を防ぐ関係機関との取組ということで、札幌市児童相談所や中央区の健康・子ども課から職員の方に来ていただきましてお話を聞いております。これは、中央区の要保護児童対策協議会というのがありまして、そちらに中央地域部会の事務局の人が参加しているので、中央区地域部会としてこういう活動にも参加していますという報告も兼ねております。

6月は、久しぶりに地域部会が再開し始めたということで、全ての時間をしゃべりばというものにして吸い上げた課題やニーズを整理して、今年度の活動のテーマをそこから考えてみようということで、やる予定です。

7月は、地域部会連絡会からお話のありました重度障がいや、身体・知的障がい者の地域生活移行や移動に関する課題の抽出ということで、グループワークを予定しています。これは、久しぶりに対面でしょうということで、準備を進めております。

あとは、定例会になかなか出てこられない方々もいらっしゃるので、7月については、事前にアンケートを取りまして、困っていることなどを情報収集した上で、対面でのグループワークでもっと深めるということを考えております。

活動については、こんな感じですが、部会運営で工夫していることや困っていることでは、報告書の中にありますが、特に強調したいところは、継続的に定例会を実施しております。定例会に参加して下さっている方々の意見を聞きますと、やはり曜日を決めていただけると参加しやすいということがありましたので、第3水曜日に設定してやっております。

また、工夫していることの一つ下の項目になりますが、定例会に参加した人には何かお土産を持ち帰ってもらうように工夫しております。これは、知らなかったことが何か分かるようになったとか、自分の聞いてほしいことを聞いてもらえたというだけではなく、しゃべりばやまなびばで出てきた課題等について、きちんと情報共有しようということで、次回以降の定例会等でこういう意見や課題が出ましたということで皆さんに報告させていただきます。

また、困っていることでは、一番下の項目になりますが、定例会に参加することが難しい人について、まなびばなどの取組をどうやって伝えていったらいいかというところが課題になっております。

一つだけ、7月の定例会でつけ足させていただきます。いつも夜にやっているのですが、なかなか参加できない方もいらっしゃるのです。ですから、7月は、日中1回と午後1回と分けてやってみようかなということで準備を進めております。

以上、中央区地域部会の報告とさせていただきます。

○近藤会長 続きまして、北区地域部会からよろしくお願ひいたします。

○和田委員 北区地域部会の和田でございます。よろしくお願ひいたします。

北区地域部会では、令和3年度はリモートを使いまして、定例会や事務局会議を予定しております。北区地域部会の中には、こども部会と相談支援部会が専門部会としてありまして、一応、地域部会として2回、学習交流会ができていまして、こども部会では1回、相談支援部会では1回、記載の内容で実施ができております。これは、リモートを使っているのですが、相談支援部会については、本当はハイブリッドでやる予定をしていたのですが、新型コロナの影響ということで、リモートオンリーになっております。一応、予定どおり、力技で何とか行うことができます。

部会運営で工夫していることや困っていることですが、一応、SNSをうまく活用して周知ができないかということを考えておりまして、今年度はいろいろ試行錯誤をしていこうというところでやっております。あとは、ほかの部会長もそうですけれども、北区地域部会も4月で部会長が交代となっております、今回、傍聴しております紺野さんが次回から全体会に参加されるというような流れになっております。

皆様方におかれましては、いろいろお騒がせいたしまして、ご指導、ご鞭撻をありがとうございます。引き続き、新しい部会長も暖かく迎えていただければと思います。

北区地域部会は、以上でございます。

○近藤会長 和田委員には、これからもぜひ活動に協力いただければと思います。ありがとうございます。それでは、引き続きまして、東区地域部会よりお願いいたします。

○小谷副会長 東区地域部会の小谷です。昨年度は、やはりコロナ禍で、まん延防止等重点措置が出ていたため、年に6回くらいしか運営会議を開くことができませんでした。その中でも、東区地域の中で交流会などをいろいろ考えて議論をしてきたのですが、やはりコロナ禍で全て行うことができませんでした。唯一、子ども部会のウェルトークがやっとできたというぐらいの成果でした。部会運営で工夫していることや困っていることは、今年度というか、4月に入ってから、毎月、事務局会議、運営委員会をオンラインで行っています。そして、昨年、考えていた交流会などの様々なイベントをオンラインを通して実施し、東区の方々にもこの東区地域部会または自立支援協議会を知っていただくと思っ、今、考えているところです。以上です。

○近藤会長 では、続いて、白石区地域部会、よろしく願いいたします。

○常盤野委員 今年度から白石区地域部会の部会長をさせていただきます常盤野と申します。資料に、令和4年度の予定というのが抜けていました。申し訳ありません。令和3年度については、やはり皆さんと同じようにコロナ禍ということであまり活動は行えませんでした。研修会ということで、子ども部会で研修会を実施というような流れになっています。

令和4年度は、現場で働く支援者を身近なところで支えられるような地域部会の活動をしていきたいと考えておりまして、現在、運営部会を対面で毎月開催しております。その中では、地域部会で求められている地域課題を抽出するというようなところですが、なかなかそれが難しいということがあるので、まずは運営部会の中で運営委員の人た

ちが何をどう考えているのかという事例を出し合って、少し検討していきましょうという
ような流れになっております。

定例会については、9月から10月ぐらいい対面で開催できればいいなと思っております。
全分野で共通の話題の勉強会みたいなことをやって、その後、自由に話せるような場
の提供ができればいいかなと思っております。

子ども部会は、引き続き、研修会を開催することになっており、子ども部会は、児童・
放課後等デイが非常に増えておりまして、支援の底上げを図りたいという思いもあって、
研修会を中心にやっております。

就労部会も同じような形になりますけれども、できれば対面とオンラインのハイブリッ
ド型を考えておりまして、ベテランから新人まで気軽に集えるようなたまり場的なこと、
隠れ家的なことを運営していければいいかなと思っております。今、活動しています。

課題としては、やはりどこもそうだと思いますけれども、自立支援協議会、地域部会と
いうものが何をしているのか、どう役に立っていったらいいのかということところがいま一つ
はっきりしないという点と、認知度が低いというところで、どう周知していくのか、どう
参加を促していくのかが課題だと考えております。以上です。

○近藤会長 引き続き、厚別区地域部会、お願いいたします。

○富田委員 厚別区地域部会の部会長の富田です。よろしくお願ひいたします。

報告書のとおりですけれども、昨年度、令和3年度を振り返りますと、コロナ禍ならで
はのテーマといいますか、研修会としては、メンタルヘルス、生活困窮者、児童虐待を含
めた児童相談所の役割という、この三つの研修を実施してまいりました。あとは、幹事会、
三役・事務局会議、臨時ケース会議につきましては、引き続き、今年度も同じような回数、
内容で考えているところです。

一番下に、地域部会周知のための広報活動実施ということで、ほかの部会からも出てい
たのですが、やはり部会そのものが何なのだろうかということがどれだけ地域の方
が理解されているかが非常に大きいよねという意見が多いので、再度、文章をつくり変え
て、いま一度、関係しているところに配付いたしました。その結果、4月の段階で8団体
が加入したいということでしたので、現在、厚別区は構成団体32団体で4月からスター
トしております。

また、その8団体には、いろいろな関係機関がありますので、障がいのみならず、高齢、
あるいは、それぞれの事業者や合同会社など、もういろいろな視点からのご意見をいただ
けるということで、より幅広く活動が進むのかなと期待をしているところです。

令和4年度につきましては、以前から取り組んでいますが、8050問題を再度取り上
げて、この辺も新型コロナによる影響も含めて、どういった実態なのかということ探ろう
ということで、今、検討しています。

それと、4月21日の総会時に、振り返りということで、高齢分野と障がい分野の基礎
を改めて理解しようというような機会、それと併せて、札幌市自立支援協議会地域部会の

役割とはという辺りで研修会を実施したところです。

部会運営で工夫していることや困っていることですが、特に工夫はできていません。困っていることとしては、このコロナ禍の最中、緊急、困難ケースがやはり頻繁に出てきます。そういったときに、危機介入ということで関係者が集まってやっていますが、オンラインの中では、具体的な手だてに時間がかかってしまったり、そのままになっているようなこともあるので、こちら辺りを具体的に、すぐに解決するようなケースばかりではないのですが、情報共有だけではいま一つ何か物足りないよねということを実感しているところでは、厚別区地域部会は、以上でございます。

○近藤会長 では、続いて、豊平区地域部会よりお願いいたします。

○小熊委員 豊平区地域部会の小熊です。よろしくお願ひいたします。まず、最初に、令和3年度の主な活動実績で、1か所、訂正がありまして、一番上に「総会&講演会（4月27日リモート）」とあるのですが、こちらはなかったのに間違えて書いてしまいました。申し訳ありませんが、削除をお願いいたします。

それで、活動報告としましては、運営委員会はリモートで8回ほど行って、定例会もやりたいねという話はあったのですが、やはり新型コロナウイルスの影響で途中で予定が狂ってできなかったという流れであります。

あとは、つきいち会という指定相談と委託相談の勉強会をリモートで8回、これはほかの区の相談員も参加して開催しております。

広報アップルネットワークは、4回発行できたのですが、活動自体があまりなかったものから、この中で行っている事業所の紹介のリレーだけが続けられたというような状況でありました。

次に、重度訪問介護の非定型申請についてのアンケート調査をやらせていただきました。対象は、介護事業所と相談支援事業所を中心に、そこで利用されている方々の状況についてのアンケートだったので、こちらがもしかしたら活動の中で一番大きかったのかなという感じもします。

あとは、毎年いただいているイオンの幸せの黄色いレシートで、今年もギフトカードをいただいて、そちらで防災用品などを購入して希望事業所に配付しております。

令和4年度の活動予定についてですが、定例会をやりたいねというのは運営委員の中で同じ意見ですが、まだ具体的な見通しができていなくて、考えている、模索しているというような状況であります。

せっかく、昨年度、重度訪問介護の非定型申請についてのアンケート調査をやらせていただいたので、その内容をもう一度豊平区の中でも話し合っ、何とか自立支援協議会として市域の問題として少し議論する場をつくっていただけないかということのどよう提案するか、今、議論している最中。あとは、この報告書に書いてあるとおりです、以上となります。

○近藤会長 課題の抽出も検討いただいて提案いただけたら、市域でも取り組める内容

を進めていきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。続きまして、清田区地域部会よりお願いいたします。

○栗虫委員 清田区地域部会の栗虫でございます。今日もよろしくお願いいたします。

令和3年度の活動実績につきましては、記載のとおりですが、ほとんどの全体的な活動はできず、運営委員会の開催もZ o o mによる開催にとどまっている昨年度ございました。

清田区の部会運営で工夫していることや困っていることにつきましては、コロナ禍のため、活動が制限されており、各団体・事業者間での関係希薄化が懸念されることであります。コロナ禍の状況下、昨年度から運営会議はZ o o mによるオンライン会議を行ってまいりましたが、先週、全体会の研修をオンラインにて開催でき、今後、専門部会でも積極的に研修会などを行えることを確認いたしました。

全体会においては、いま一度、自立支援協議会を知ろうをテーマに、地域部会の活用方法や顔の見える関係づくりを改めて構成員の皆様知ってもらおうセミナーを行い、これからも濃密な関係づくりができるよう工夫してまいります。

今年度の活動予定も上げておりますが、平成30年の北海道胆振東部地震の災害を受けて、防災に関する継続した取組を行うべく、今回の研修によって、10区の地域部会と三つの専門部会がまとめた防災に関するまとめを改めて紹介し、また、毎年、更新しております清田区の防災マップ、事業所マップ、事業所一覧などを活用してもらおうなど、事業者間の顔の見える関係づくりに役立てたいと考えております。清田区からは、以上でございます。

○近藤会長 では、続いて、南区地域部会よりお願いいたします。

○奥田委員 南区地域部会の奥田と申します。よろしくお願いいたします。令和3年度のおもな活動実績としましては、コロナ禍ということで、結果的に、運営委員会、事務局会議等を行う程度にとどまっております、その他、事例検討・課題抽出部会やネットワーク・情報共有部会、子ども部会に関しては、感染防止等を含め、活動を休止しております。

また、下半期になってから、運営委員会、事務局会議等で検討して、コロナ禍における事業所の困り感に対してのアンケートを作成して、昨年度、実施させていただきました。

現状、そのアンケートの集計をさせていただいて、アンケート結果からまた課題を整理して、令和4年度の活動予定として取り組んでいきたいということで検討している状況です。

今後、部会運営で工夫していることや困っていることですが、コロナ禍以前に関しては、各部会においてできていた研修会が全くできなくなってしまうので、構成している各事業所の連携もこう思うようにできなくなっている状況がありますので、その部分も含めて、今年度、新たに以前から行っていた研修会が実際にできるように取り組んでいければなと思っております。

南区地域部会の認知度が低下しているというのが現状だと思っておりますので、各区の地域部会の皆さんから情報を得て、認知度を高めて、この部会を困り事解決のできるツールとして

使ってもらえるように、今後、取り組んでいきたいと思っております。

皆さん、これからよろしく願いいたします。

南区としては、以上でございます。

○近藤会長 では、続けて、西区地域部会よりお願いいたします。

○前田委員 西区地域部会の前田です。よろしく願いいたします。令和3年度の西区の活動報告をさせていただきます。

年度当初の計画では、1年をかけてZ o o mを使って各事業所とのやり取りに慣れていくことを主に予定を組みました。Z o o mを使って事務局会議や全体会、グループワークをできるようになって、うまくいけば、年度末辺りで講師の方をお呼びして研修会等ができればいいなとは思ってはいました。

ただ、緊急事態宣言が期間的には2回ぐらい出たため、大部分の活動が中止になっていきます。最後の緊急事態宣言が明けた9月に、もう一度、事務局会議を開催して、一回、活動の予定を組み直しております。

10月に開催した全体会では、Z o o mを使って、各事業所の方がZ o o mに慣れるということで、簡単に、事業所の紹介や事業所で困っていること、西区地域部会で行ってほしいことを参加者全員が発言いただいております。

その次に、1月に行った全体会は、Z o o mのグループワークの機能に挑戦してみようということで行っております。そのグループワークの中では、重度障がいに関する課題や、身体障がい者、知的障がい者の地域移行に関する課題の抽出、あとは、自然災害の各事業所への対応状況等の情報共有を行いました。ただ、グループワークをやると、操作の設定に不慣れでスムーズに行かなかったところも結構あったものですから、令和4年度も6月末にまた全体会があるのですけれども、そこで、また、前回のグループワークの操作の反省を生かしてやってみようということで予定をしております。

あとは、年度当初はZ o o mを使った研修会を考えていたのですけれども、結果的には、そこまでは至りませんでした。

今後の課題としては、Z o o mを使って本当に久しぶりに事業所の交流をしたのですが、やはり、コロナ禍特有の課題でしようけれども、事業所同士の困り事等もあれば、取りあえず顔を見て何かお話をしたいという方が非常に多くて、何とか今年度もそういう場所や場面を増やしていきたいなということで企画をしております。

今、新型コロナウイルスが下火になってきているのか、研修会について、Z o o mとのハイブリッドという開催方法も出てきていますので、令和4年度は、そういうところの意見や情報を得ながら少しやっていきたいなと思っております。

あとは、最近の課題としては、うれしいことではあるのですけれども、地域部会の構成員になりたいという事業所が多くて、西区では定員を30事業所までと決めているのですが、令和3年度の中で定員が埋まってしまって、その後も構成員になりたいという希望があります。一応、その規約にのっとって、待機というか、構成員ではないけれども、情報

は流して、全体会や交流会があれば参加いただければという形にはしています。今後、定員をどうしていくか、たしか定員がない地域部会もあると思うし、定員を増やしたことで、今後、また、対面での会議があると場所の問題があるので、それは令和4年度中に事務局で検討して、来年度に向けていかなければならないかなと考えている状況ではあります。西区からは、以上になります。

○近藤会長 続いて、手稲区地域部会よりお願いします。

○伊西委員 手稲区地域部会の伊西です。医療法人稲生会に所属しております。まず、手稲区地域部会の令和3年度の活動報告からお伝えいたします。

手稲区地域部会は、コロナ禍になってからのこの2年間、三つのグループがあるのですが、それぞれのグループの中で少し温度差がありまして、まずは、一つ目の就労グループは、販売会などの就労に関することをやっているところですが、販売会が中止になったりしながらも月1回の定例会を開催しまして、何とか現状維持をしていこうというような雰囲気が強かったかなと思います。

一方で、子どもグループは活発でした。早々にデジタルデバイスの活用というか、対面での開催に早めに見切りをつけて、2020年度のコロナ禍に入ってからすぐにZoomを活用して月に1回の定例会に移りましたので、Zoomで定期的に会議を重ね、ここに書いてあります矢印の三つ目、令和4年度の1月、2月、3月は、月に1回、3回シリーズで虐待の勉強会を開催しております。毎回50人から80人ぐらいの方に参加いただいて、前段は講師を呼んでの勉強会、後段がそれこそZoomのブレイクアウトルームを活用したグループワークです。それが大変好評で、とてもよかったのではないかなと思います。

子どもグループの中では、やはり移動時間を削減できるということと、会場を借りなくてもいい、会場費用もかからないため、Zoomでの開催はすごくメリットがあるということで、コロナ禍が明けてもZoomで開催することになっております。

あとは、まち課題グループという三つ目のグループは、残念ながら途中で解散しております。運営メンバーが集まらないということや、運営メンバーの中で、一体、自立支援協議会をやって何になるのかという懐疑的な意見があったということも聞いております。

令和4年度は、部会運営で工夫していることや困っていることに目を移していただいたのですが、手稲区地域部会は、部会長の私をはじめとして、二つのグループが残っております。子どもグループ、そして、就労グループが地域生活支援グループと名称を改称して、そのグループリーダーも今回全て替わっております。体制を立て直し、もう少し足元から本来の自立支援協議会の地域課題に取り組み、地域性を持った活動をするということをもう一度見直しまして、みんな疲れているというような意見もあるのですが、できることから取組を始めていこうと思っております。

やはり、周知が必要だということで、6月に、新しくフェイスブックを開設しました。以上です。

○近藤会長 どうもありがとうございました。

以上、10区分の地域部会の報告をいただきました。

やはり、コロナ禍の影響でいろいろと活動が制約されてしまっている部分もあるのかなと思いますけれども、その中でも少しずつ工夫したり、新たな試みをしていただけているところもたくさんあると思いますので、ぜひ、今後とも継続していただければと思います。

あとは、共通して、やはり協議会の役割、意義の周知、担っていただけるようなメンバーの確保で苦慮している区もあるようですが、西区は入りたい方が多いとありましたので、うまくその辺りの情報、どういう背景があるのかということも確認いただいたりしながら、各区で人員を確保して運営を進めていけるように情報交流もしていただけたらうれしいなと思いました。

それでは、続いて、地域部会連絡会に関してお願いしたいと思います。こちらは、小谷副会長よりお願いいたします。

○小谷副会長 令和3年度の主な実績ですけれども、コロナ禍の前だと、年に3回もしくは4回行っていたときもあるのですが、昨年度は11月と2月の2回、それもZoomを使ってオンラインでの会議になりました。

でも、久しぶりに11月や2月に集まって、各地域部会のコロナ禍において思うような活動ができない歯がゆさや、地域で暮らしている障がい者の困り事などがありながら、それをうまく自立支援協議会につなげていけないという意見がすごく出ていました。

各地域部会の近況と情報の共有ですが、各地域でいろいろなことを工夫していること、また、豊平区のようにすぐに非定型の課題に対してアンケートを取ったというような活動を知ることができるなど、本当に、すごく大きなメリットがあるなと私自身も感じていました。

地域部会連絡会の中でも、重度障がいに関する課題や、知的障がい者、身体障がい者の地域移行の課題や移動に関する課題を話してはいるのですが、豊平区もそうですし、手稲区でもそうだったのですが、今、重度訪問介護の非定型、特に、重度訪問介護を使っている障がい当事者、または、それに関わっている相談員の方が非定型の申請をする際に、札幌市はかなり厳しいというか、重度訪問介護の見守りが認めてもらえないという課題があちこちから上がってきています。この課題は、特に2月の地域部会連絡会の中で、重度訪問介護の非定型の課題は重度障がいに関する課題の中に入るよねということで、これは各部会全員同意して継続して議論することになりました。

また、2月には、この6月の全体会で新しい部会長が5名替わりまして、新しい部会長との地域部会連絡会が開かれている中で、同じように地域部会の情報交換をやりたいなと考えております。

ただ、私は、副会長という立場で自立支援協議会の運営会議に出ているので、地域部会と自立支援協議会とのつながりが分かりますし、自立支援協議会の運営会議に出ている地域部会長も何となく分かるのですが、それに全く参加していない地域部会の方の中には、本体である自立支援協議会は一体何をやっているのかと。例えば、非定型の問題もそうで

すけれども、地域部会が頑張っているのに、どうやったら地域で急ぐ課題をスピーディーに自立支援協議会の中に課題として上げられるのか、そういう歯がゆさや、協議会に対してのつながりが見えないという意見も出されていたので、これは大きな課題だなと思って、運営会議でこれらのことを検討していかなければいけないなと思います。

地域部会連絡会の報告は、以上です。

○近藤会長 様々な課題も含めてご報告いただいたかと思いますが、必要な検討を進めていければなと思います。

では、続きまして、相談支援部会よりお願いします。

○荒川委員 相談支援部会の荒川です。よろしくお願いします。

令和3年度の活動です。

令和2年度とそんなに大きな変化はないのですけれども、一つだけ、計画相談目安検討チームというものが発足されて、アンケートなどを実施しております。これは、委託相談事業所と指定相談事業所の計画相談がどうしても重なってしまうので、相談支援体制充実に向けた整備が必要というところで、そういう調査をしております。

あとは、各エリアの活動計画というものがあって、その計画に沿った活動をするのですが、そのほかに、かなり会議が多くて、派遣会議が十数会議や、地域支援会議などがあります。会議をして報告するというようなスタイルです。

そのほかに、課題調べシートの情報共有と書かせていただいているのですけれども、もともとは、地域課題を協議会などに上げていくことが目的だったのですが、5年ぐらい前だと記憶しているのですけれども、なかなか課題が出ないというところで、情報共有も含めたシートの上げ方にしようということで、それで令和3年度については8シート提出されています。相談員としての知識の習得や向上につながっているかと思います。

巡回法律相談は、12回開催しております、これは相談員向けの法律相談を実施しているのですけれども、ホスト役が事例を集めて、毎月、大体四つぐらいの法律相談がありまして、参加されている相談支援事業所にとってもかなり勉強になっているような相談会になっています。

今年度につきましても、内容自体がそんなに大きく変わる取組はないのですけれども、計画相談目安検討チームの会議は引き続き行い、今年度中に何らかの結果を出していこうというふうになっています。

あとは、相談支援部会のエリア事業計画というものがあつたのですけれども、その事業計画とエリアの活動を一体的な活動にということで、相談支援部会のエリア活動計画というものをつくりまして、その活動計画を一本化した中で、それぞれのエリアで活動していくことになりました。

今年は、大きなところは、主に権利擁護に関する内容を取り入れまして、一応、相談支援事業所が虐待の通報の窓口になっているのですけれども、通報から対応の方法など、それぞれのエリアで確認していく、それから、成年後見制度についてももう少し勉強していくと

いう内容を取り入れています。

相談支援部会の規約もかなり内容が古かったので、全文改正しております。

最後に、部会運営で工夫していることや困っていることは、部会運営とは別の話にはなるのですが、皆さんご存じだと思いますので、一応、報告です。

令和3年度末に委託相談支援事業所が3か所辞退されておりまして、今年度、新たな相談支援事業所が3か所開設されることになりました。手稲区、西区は、ちょうど今月6月1日から開設されております。

以上で、報告を終わります。

○近藤会長 かなりのボリュームに対応していただいていると思いますが、引き続きよろしく願いいたします。

では、続きまして、就労支援推進部会、よろしくお願いいたします。

○荒井委員 就労支援推進部会の荒井です。

就労支援推進部会では、昨年度の活動実績と今年度の活動予定は、記載されているとおりになります。

部会の運営で工夫している点として、昨年度、また、今年度も既に全ての会議、研修等はオンラインで実施するというので決めましたので、新型コロナウイルスの状況も落ち着いてくるかと思いますが、今後も基本的にはオンラインで開催を予定しています。

オンラインで研修することで、研修や学習会の講師の方は、必ずしも札幌市内の方ではなくてもいいというところで、旅費がかからないというメリットを生かして、昨年度は埼玉県と福岡市の事業所の方のお話を聞くこともできました。今年度、7月に予定している定例会では、埼玉県のB型事業所の取組についてお話をお聞きする予定になっていますので、そういった全国規模で様々な就労支援についてお話を聞くことができていると考えています。

また、研修においても、管理者向けの新型コロナウイルス対応や、事業所運営で管理者の方たちに向けた研修、あとは、就労経験3年未満の方に向けた研修など、それぞれのようない経験があるかによって研修のニーズが変わってきますので、それぞれのニーズに合わせた研修会を開催するようにしています。

また、構成員の方同士、やはり、なかなか横のつながりが持ちにくいご時世ですので、研修では情報共有が行われるようなグループトークの時間を必ず設けて実施しているというところで工夫をしています。

就労支援推進部会からは、以上です。

○近藤会長 コロナ禍の状況を生かしながら研修等が続けていただけているということで、ありがとうございます。

続きまして、子ども部会、よろしくお願いいたします。

○金澤委員 子ども部会の金澤と言います。

令和3年度の子ども部会の活動ですが、例年、支援力向上セミナーや社会的養護の関係

研修会等も行っていただけですけれども、令和3年度は、全体の研修会の一つのみでした。新型コロナウイルスの影響があり、対面的な研修ができないということ、特に、私たち福祉の分野では対面を通してのケース会議の必要がありますので、研修の開催方法について、再度、検討が必要かなと捉えています。

あとは、子ども部会も関わる分野が広いということもありますので、各種会議に参加しながら、子ども部会としての意見反映は行っています。

令和4年度も、令和3年度の反省を基に、特に、部会の役割として人材育成があると思っていますので、そういう意味では、何らかの形で研修を充実して多く開催すると。もう一つが、各地域部会の発表の中から出てるように、地域ごとの課題があり、地域の子ども部会の課題があるというところでは、研修の内容についても、やはり地域課題としての研修会と札幌市全体の中における子ども部会の研修という整理をしていくことも必要だということを今聞きながら感じていました。

あとは、部会運営等での工夫は、今お話ししたように、各分野に関わっている部分が多いということで、運営委員の構成においても、子どもの関係者よりも、行政の方や医療の方、行政の中でも教育委員会の方にも参加してもらっているように、幅広く部会を運営しているということは一特徴かなと思っています。そのために、意見交換を幅広く行うことが必要になっているのが現状だと思っています。その幅広いということによって、特に、医療や教育、福祉の連携ということがとても大切ですが、その三つだけではなくて、他の分野とも連携しながら札幌市の中で子どもに対する共通したシステムを進めていくのが必要であると捉えています。

以上です。

○近藤会長 今年度は、連携部分を含めまして、ぜひ進めていただければと思います。

なお、専門部会連絡会に関してですけれども、昨年度は活動実績がありません。

今年度に関しましては、レベル1研修、レベル2研修の開催について、検討を進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上、各報告をいただきました。時間が短くなってしまうかと思いますが、全体を通しまして、ご意見やご質問、情報共有、ご感想などありましたらお願いしたいと思います。

画面が見切れないかもしれませんので、マイクを外してご発言いただければと思います。

鴨崎委員、お願いします。

○鴨崎委員 手稲区第1地域包括支援センターの鴨崎と申します。

貴重な報告をいただき、ありがとうございます。

2点ほどお聞きしたいと思うのですが、1点目は、先ほど西区の地域部会から構成員になりたい方がたくさんいらっしゃったというお話がありました。やはり、ほかの地域部会のお話をお聞きすると、周知であったり知名度が結構難しいようなお話もあって、そのなかで、西区から非常に積極的な手挙げがあるというようなお話だったので、何か西区の地域

の特性や背景があるのかどうかということをお聞きできるといいのかなと思っただけで、まず、1点目の質問させていただきたいと思っております。

お願いいたします。

○近藤会長 西区、いかがでしょうか。

○前田委員 今、ご質問いただきましたけれども、正直、地域の特性や背景は分かりません。令和3年度中に構成員になりたいのですがというお話を幾つかいただいて、いいですよということでどんどん受けていたら、気づいたらいつの間にか3事業所ぐらいは入れなくて、入れなかった事業所には全体会や交流会のご案内だけは流しているという状態です。

多分、新しい事業所ができると、区の主査のところにも行かれるので、主査からもPRがあるのかなと思っておりますし、また、新しい事業所が周辺の既存の事業所へ挨拶回りをする中で、事務局員の事業所に来訪した際、西区地域部会のことを話したりすることで、事業所間交流や何か情報をいただける場所があるのであればということが地域部会の参加のきっかけなのかなと思っております。しかし、構成員を集めるために何か積極的なPR活動をやっているわけではないので、どうして参加希望者が多かったのかは不明です。

○嶋崎委員 高齢分野でも各区に在宅ケア連絡会というものがありませんけれども、西区は割といつもたくさんの方が集まっていられるので、何かそういう西区の背景もあるのかなと思って、聞かせていただきました。

ありがとうございます。

もう一点は、厚別区地域部会にお聞きしたかったのですが、令和4年度の活動予定で地域部会の開催(年3回)というところで、「『高齢分野と障がい分野の基礎と厚別区の現状について』勉強会を実施」と記載されております。高齢分野となると、私たちが65歳以上の高齢者の総合相談窓口をさせていただいておりますが、地域包括支援センターなど、どういったところと勉強会を実施されるのかということで、少し教えていただければと思っております。

○近藤会長 お願いいたします。

○富田委員 厚別区は、実は、障がい分野の構成員もさることながら、高齢分野の構成員が大変多いのです。

それと、地域の課題の中で、例えば、認知症の関係で地域包括支援センターの人が関わっていて、実は、障がいを持った方がご家族の中にいらっしゃるというケースとして、いわゆる老老介護など、いろいろな言い回しがありますが、高齢の方が障がいを持った方を幾つまで介護していくのかみたいなことであると、厚別区の場合は結構入り乱れたケースが出てきています。厚別区は、今現在そういったところです。

先ほど、構成団体が増えてきているというお話もしたかとは思いますが、今回、8団体増えました。それで、30団体を超えたという話もしたのですが、増えることがどうなのかという話も実は出たのです。結局、自立支援協議会の趣旨をしっかりと理解してく

れる、地域部会をしっかりと理解してくれるという前提であれば、これは拒否するものは何もないだろうと。ただ、小さな事業所の場合、ましてや、新規の場合は、やはりそういうつながりを非常に求めているのではないのかなと思うのです。

厚別区の場合は、最近、新規の事業も若干増えてきている傾向もあれば、高齢者のケースもたくさんあるし、障がいとのつながりのあるケースもいっぱい出てきているところです。これから、それぞれの区の特徴が出てくると思うのですけれども、私は、個人的には、とにかく狭めていくのではなくて、可能な限り広げていきたいと考えております。

ただ、取捨がつかなくなるようなことも想定されます。先ほど西区からもありましたように、一定の人数制限というのはありかなとは感じていますが、今現在は狭めるのではなくて広げていくときかなという考え方をしています。

○鴨崎委員 先ほど、認知症のケースで地域包括支援センターとの関わりが多いということで、私たちも手稲区で委託相談支援事業所の方々は結構密に連絡を取らせていただいて、年々、一緒に動くケースも増えているなど感じております。

厚別区で書かれている8050問題もかなり散見されるようになってきたかなと思いますので、より一層、私たちも一緒に連携していければと思っておりますし、実際、来週、私は、手稲区の手稲区地域部会にお声がけいただきまして、まず、見学という立場で参加させていただきたいと思っておりましたので、いろいろなところで連携が深まっていければいいかなと思っております。

ありがとうございます。

○近藤会長 構成団体については、ちょっとしたアンケートで、知ったきっかけは何ですかとか、入ろうとした思ったきっかけは何ですかというのを聞いていただくと、ほかの区でも参考にできるのかなと思われましたので、もし余裕がありましたら西区にお願いできればと思います。

あとは、最近、国レベルでも重層的な支援体制整備や、様々な支援が一体的に行われるところも広がっていますので、我々としては、障がいを軸にしながらも、先ほど子どものお話もありましたように、本当に広い範囲の中で取り組めるように視野を広げていったらいいのかなとお話を聞きながら思いました。

ちょうど、先日、道内でヤングケアラーに関する講演等もあって、本当に幅広さがあるかなと思いますので、うまくコラボレーションしながら、いろいろな人たちを巻き込んで、協議会を知っていただく機会にしつつ、何か展開できるといいのかなとお話を聞きながら思いました。

このほか、ご質問やご意見等がある方、いらっしゃいませんか。

常盤野委員、お願いいたします。

○常盤野委員 厚別区地域部会にお伺いしたいのですが、昨年度、臨時のケース会議を開催して緊急性のあるケースについて検討したとあるのですが、地域部会の役割としては、こういうことを地域部会で検討するというのはすごくいいことだと私は思っている

のですけれども、どういう形で持ち込まれてくるのか、相談ルートや誰が音頭を取ってやっているのか、そういう辺りを少し教えていただけるとありがたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○富田委員 私もまだ2年目なものですから、部会長になって初めて知ったという実態です。

それで、地域課題に対してどういったものがあるのか全然予想もつかない中、入ったのですけれども、厚別区には相談支援事業所の相談室ますとびーがございますし、やはり、保健福祉課との連携というのでしょうか、割と両者に相談が入ることが多いと思います。直接、事業所というよりは、やはり相談事業所、役所という感じなのでしょうね。

それで、先ほど危機介入みたいな言い方をしたのですけれども、情報として入ってきたときに、アセスメントではないですが、実態把握から入るのでしょうけれども、果たして、どのぐらいの人数でどういった関係者が集まることで進めたらいいのかというのは、今現在、ケースによって様々です。

ただ、やはり1人でも2人でも関係者が増えることで、いろいろな角度からの意見を伺えますし、また、厚別区は大変特異かもしれませんが、構成員にドクターがおりますので、そういった所見がすごく大事で、介入の際にも、行政の人が入れる場合もあれば、一事業所がいきなり介入といってもなかなか難しいので、やはり関わる上での根拠がなければ、やみくもにケースにはなかなか入れないところはあるとは思っています。

ですけれども、やはり危機的な状況、本当に家庭崩壊、場合によっては、事件につながるようなケースがこれほどあるのだなというのを、今、実感しています。ですから、すぐには解決するものはなかなかなくて、時間はかかるのですけれども、やはり、そういったことを見逃さない、状況がどう変化しているかといったことを定期的に確認するだけでも、誰が使えるか、どういう人たちがいるのかは別としても、それはやはり地域部会の役割の一つではないのかなと私自身は理解しているところです。

まだまだ、何ができるとか、こうあるべきだといった意見は、私自身は全然持っていない。

○常盤野委員 ということは、相談支援事業所や行政からこんな困難事例がありますというのを地域部会で共有しているというようなイメージですか。

○富田委員 そうですね。そういう案件が多いです。3件、4件は、入れ代わり立ち代わりで関わっていて、定期的な振り返りの機会を設けているところです。

○近藤会長 一つのきっかけにしながら、地域のつながりをつくっていくという部分ではすごく大事なところかなと思います。

あとは、荒川委員からチャットをいただいておりますね。

○荒川委員 発言するまでもないからどうしよかなと迷っていたのですけれども、相談支援部会の令和4年度の活動計画のところで一部修正させていただきます。

4行目に、「『エリア事業計画』は『エリア活動計画』に名称変更」と書いているので

すけれども、相談支援部会の事業計画を相談支援部会の活動計画に変えましたよということでした。そして、エリア活動計画というものがなくなって一本化しましたということでした。

○近藤会長 皆さん、修正をよろしく願います。

ほかに、いかがでしょうか。ご意見、ご質問がある方はいらっしゃいませんか。

よろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○近藤会長 特にいらっしゃらないようでしたら、時間もありません、申し訳ないですけれども、報告、意見交換に関してはこちらで区切らせていただきたいと思います。

よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○近藤会長 ありがとうございます。

では、議題の二つ目に行きたいと思えます。

運営会議の活動報告に関してです。

こちらに関しましては、私からご報告をさせていただきますと思えます。資料で言いますと、共有もいただいておりますが、28ページになります。

令和3年度の運営会議に関しましては、奇数月にオンライン開催をしております。内容としましては、昨年度までに終了報告を受けたプロジェクトチームの解決に至っていない課題の引継ぎ先の整理を行ったほか、昨年12月の全体会でいただいた意見を基にして、各部会で課題集めを行った後の解決に至る経過を分かりやすくまとめられるように好事例集を作成するという議論を進めていきました。

継続的な取組の一つとして、重症心身障がい児者、重度知的障がい、強度行動障がい等の重度障がいの地域移行に関する課題集めと解決に向けた取組の検討を各部会で行うことを確認しております。

また、部会の皆様には、ご協力をいただいている最中になります。こちらの課題の抽出等に関しましては、今年度の9月をめどに一度取りまとめをして状況整理を行い、また、そこから展開を進めていくということで確認しております。

自立支援協議会の資料について、機能や役割がより明確になるように、一部修正を行っております。皆さんのお手元の年間活動報告書の211ページの下段になるかと思うのですが、これまでは行政機関への要望や陳情はしないという記載となっておりますが、協議会の課題解決の在り方として、行政を含む関係機関が協働して解決に取り組むことがより明確になるように記載を変更いたしました。協議会以外の解決方法についても例示をして、協議会における課題の解決に向けた取組と区別ができるように掲載をさせていただきます。

後ほど、資料等でご確認をいただければと思えます。

そして、最後に、皆様にお諮りする案件があります。先ほどお伝えしました好事例集に

ついてですけれども、運営会議の中で好事例集のフォームを検討して、お手元の資料3として皆様に配付しております。今、画面共有もいただいております。

こちらの資料の1ページ目、2ページ目に関しましては、市域と区域それぞれでこれまで取り扱った課題から成果をまとめたものになります。市域としては、この中から三つ抽出をして、区域については、赤枠で囲んでいるところから、ひとまず二つ程度抽出をして好事例としてまとめてはどうかということで、運営会議で検討をいたしました。

また、5ページの好事例集のフォーマットについても、共有させていただいておりますけれども、こういうような様式のフォーマットを予定しています。

少し戻りますが、3ページにあるようなイメージで、次の4ページにある協議会のプロセスを踏まえた流れに加えて、課題解決に向けた取組の感想や、この課題や結果が現在どのようなになっているのかというのを1枚のシートに記載できるようにフォーマットを整えております。感想と現在の様子については、実際の課題に関わった方に伝えいただくような形でフォーマットを作成できればと考えております。

そして、具体的なイメージとしては、地域の課題を取り上げた資料の6ページから8ページに記載しておりますので、こちらをご確認いただければと思います。画面で共有させていただいているものになります。

このような形で、今年度は好事例集を作成して、自立支援協議会に参加する方にとって、課題の報告から解決に至る流れが分かりやすくなるように資料を作成したいと考えております。これは、各部会等で取り組む際の参考になるということも大きな役割かなと思っております。

また、先ほど協議会の役割を知っていただくというようなところもあったと思っておりますので、そういった周知をするための資料にも活用できるのではないかなと思っておりますので、様々な角度から取扱いができればというふうに考えております。

みなさん、こちらについて、ご意見等をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

特に、ご意見等はございませんでしょうか。

どうぞ。

○伊西委員 配っていただいた資料の206ページから、自立支援協議会とはとか、どういう役割を担っているか、札幌市のホームページに貼ってあるような組織図がありますよね。今月、手稲区でフェイスブックのページを開設したとお伝えしたと思うのですが、出典元を書いた上で、ここから引用してもいいものなのでしょうか。

さっき言った足元から、手稲区からこういう活動をしていますよとご説明するときに、自立支援協議会という言葉自体も知らない事業所の方たちがたくさん多いと感じておりますので、この資料をフェイスブックの公開されているページの中で使っていいものなのかどうか、確認させてください。

○近藤会長 こちらは、事務局への確認でよろしいでしょうか。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） どこからかという出典は書いたほうがいい

かなと思ひますが、特に問題ないと思ひています。もし何か支障があるようであれば、改めてご連絡したいと思ひます。

○近藤会長 ぜひ活用いただき、広く周知にご協力いただければと思ひます。よろしくお願ひいたします。

ほかに、今、報告した部分や好事例集の作成に關しまして、ご質問やご意見等がある方はいらっしゃいますでしょうか。

大館委員、よろしくお願ひいたします。

○大館委員 おがるの大館です。いつもお世話になっております。

先ほど、9月をめどに、重症心身障がい児や強度行動障がいについての課題を集めてまとめることが進んでいますというご報告があったのですが、具体的にどういう方法で課題を集めていらっしゃるのか、どういう観点でやっているのかを伺えればと思ひていたのですが、どうですか。

○近藤会長 こちらも事務局からでよろしいですか。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） 基本的には、こういった形で情報収集に取り組むかというのは、各部会の中で議論していただき、どういう形でやるかも併せてお願ひしております。例えば、部会によっては、事業所にアンケートを取るところもあると聞いていますし、やり方はそれぞれ様々という状況になります。

○大館委員 では、各部会では、その部会のニーズに応じて課題を抽出していただき、それを集めてまた整理して、また共通のもので何か取るということになっていくかもしれないということですか。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） そうですね。

今、小谷副会長から手が挙がっておりましたので、お願ひします。

○小谷副会長 好事例集の中に今までの課題の事例も載っていますが、それを見ていただいたら分かるように、先ほど最近は少ないという話だったので、実は、東区もかなり多くの課題を上げております。

東区地域部会の場合は、東区地域の特別な課題と感じたときに、今、こういう問題があるのだと、そして、どういう経過なのかを書いて、それがどうなったらいいのだろうかという特別な組織が東区の中にあります。それを事務局会議に上げて、今度は東区地域部会の中で解決できることだろうか、または、これは札幌市全体の課題だから自立支援協議会の運営部会に上げて、自立支援協議会のほうで市域の課題として検討すると。そして、よい方法に持っていける方法はないか、また、こういう資源があるということのも運営会議の中で出てくるのです。

さっき、厚別区の富田委員も言っていました、8050問題など、課題がいっぱいあると思うのです。それはどういう方向になったら解決ができるのだろうか、解決に至らなくてもこういう方法がある、これを使ってみたらどうだろうというような情報が自立支援協議会の中に出てきて、好事例集のような結果が生まれてくるといいのかなと私は思っ

います。

それから、白石区の部会長も言っていました、自立支援協議会を知らない事業所は確かにたくさんあります。自立支援協議会について、どうやったら東区でも知ってもらえるか、私は事業所を持っている人間ですが、うちのスタッフがどこまで知っているかといったら、正直、ほとんど知らないです。私が言って、やっと分かるよだという感じですから、それはこれからの課題かなと、自立支援協議会全体、また、各地域部会全体の課題かなと思っ

ています。
○近藤会長 課題の部分で言いますと、プロジェクトの中で取り組んできたのですけれども、成果といいますか、まだ、もやもやしたところもございますので、どういう課題があるのかを改めて整理いたします。目に見える形になってくると具体的な取組が進められますが、プロジェクトは一旦終了しておりますので、新たに立ち上げる必要があるのか、そうではない形で解決できるものなのかも整理しながら、今年の計画の中では、本来は昨年3月をめぐりというお話が出ていたのですが、コロナ禍の影響等もあり、なかなか活動が進んでおりませんでしたので、9月に一区切りをつけて上がってきたものを整理して、さらに、それを仕分けながら、どういう形で解決に向かっていくかを検討していく、そういった流れで進めさせていただければと考えております。

ほかにございませんか。

どうぞ。

○常盤野委員 今、大館委員が質問された重身障がい児者の方の課題集めを各部会で実施するということですが、私の認識不足で申し訳ないですけれども、白石区地域部会では、運営会議からこういうことが下りてきていることを認識していなかったのです。

何となく、漠然とし過ぎているというか、各部会に課題集めのやり方を任されても、どういふふうを集めていったらいいのか、どういふ手だてを取っていったらいいのかというのは、私は、重度障がいには詳しくないので、わからないのです。運営会議のことを知らないで申し訳ないですけれども、運営会議で決めて、それを部会でやってくださいとぼんと下ろされても、手だてがわからないので困るなというのが私の印象でした。

もしこういうふうにするのだったら、札幌市としての課題ということですから、こういう方法で地域部会に取り組んでくださいと言っていたほうが具体的に進んでいくのではないかと感じました。

勉強不足で申し訳ないですけれども、以上です。

○近藤会長 運営会議でも近いような意見は出ていたと認識しております。

ただし、先ほどおっしゃられたように、かなり広い範囲ではありますが、的を絞っているわけではなく、これまでの流れの中で、一旦はプロジェクトが終了しましたけれども、では、具体的な課題とは何だったのだろうかというところがなかなか見えていなかったのかなと思っ

があるから、そこについて、皆さんからご意見をいただいたり、どれだけあるのかを目星をつけて、こちらから提案できるようなものがあればさせていただきたいと個人的には思いますが、実は、そこまで至っていない、課題については、結構曖昧な状態で触れられていたのかなと思います。範囲も広いというところで、いろいろな領域にまたがるものでもありますので、それは事例等でも構わないのですけれども、地域の中の課題としてどういうものが具体的に存在しているのか、そこが見える化できたらなというところではあったのです。

そういった意味で、この方法で、という投げ方をさせていただいてはならず、地域によってはアンケートを取りましたというところもありますし、あとは、実際に課題として具体的に上がってきていて、地域の部会の中で話題に出てきたものを具体的に取扱うという方法も出てくるかもしれません。その辺りは十分にもみ切れていないところがあります。

あとは、部会ごとの抽出方法の特徴や、区ごとの地域性の違いも関連してくるかなと思います。ひとまず、どういった課題があるのか、もしかしたらないということもあり得るかもしれないという前提の中で、確認ができればというような流れだったと思います。

皆さんにはお手数をおかけしている部分ではあるのですけれども、ご理解をいただいて、ご協力をお願いしたいと思います。

逆に、今回で終わりではないので、例えば、こういう方向でやってみたと、やはり課題がたくさん出てきましたよとか、見えるようになってきたとなれば、その手法をまたいろいろな地域で取り組んでいただくことで、つなげていければなと思います。

お手数をおかけしますし、すっきりとした回答にはなっていないと申し訳ないですけれども、よろしくお願ひします。

○妻倉委員 常盤野委員やほかの地域部会で新しく入られてきた方は分かりにくいかなと思うのですが、運営会議の中で重度障がいや地域移行、移動に関する課題をどうしようとなったときに、運営会議自体は解決策を話すところではないので、でも、プロジェクトは終わってしまったけれども、まだ何か課題があるよねというところで、特に、非定型が現実問題として上がってきていたので、一旦、各地域部会でということになりまして、地域部会連絡会で議論しております。それから、各地域部会で取組をという話になっているのです。

地域部会連絡会の中で、では、どこまでが重度障がいとかという議論はあったのですけれども、それはここからここまですというのを地域部会連絡会で決めるのではなくて、各地域部会の中で、これは重度障がいのことだよと判断していただければと、曖昧で申し訳ないですけれども、やりにくい部分や分かりにくい部分はあったにせよ、各地域部会の考え方に任せたほうが課題に取り組むやすいのではないかと話になったような気がします。

申し訳ありませんが、各地域部会で取り組んでいただけたらと思いますので、よろしくお願ひします。

○近藤会長 つけ足しをありがとうございます。

常盤野委員、よろしいでしょうか。

○常盤野委員 非定型の話は下りてきていたので、非定型の話とこの話がつながっているのだなということは分かりました。

でも、正直言って、どうしたものでしょうかというか、どう取り組んでいったらいいのでしょうか。命に関わる問題だったりもするので、大事なことだなどは思っているのですが、私は就労系ですから、では、どうしたらいいのか、白石区地域部会では取り組み方がぱっと出てこないというのが正直なところです。

背景は分かりましたが、もう少し何か示唆してもらったり、検討していただけるとありがたいというのが正直なところです。

○近藤会長 小谷副会長、お願いします。

○小谷副会長 きっと、新しい部会長は、いきなり各地域部会に自立支援協議会の運営会議から課題が下りてきたという印象を受けると思うのですが、実は、これは、先ほど言ったように、この前の全体会の中で課題が出てきたものです。

いろいろなところから同じような課題がたくさん出てきたよね、では、それをどういう方向に持っていくかを検討しましょうということで作るのがプロジェクトチームなのですが、プロジェクトというのは有期限です。長くやったプロジェクトチームもあるのですが、大体2年ぐらいの期限です。ただ、やったはいいけれども、絶対解決できない課題もやはりあるのです。

実は、もともとは重度心身障がい児者のプロジェクトチームというものがあまして、長く6年ぐらいやってしまったのですけれども、これが終了したのです。その終了するときに、こういう課題が残っていますと全体会に報告したら、全体会からは重度心身障がい者だけではなくて、重度の知的障がい者の問題、重度の行動障がいの課題はやらないのかという話が出てきました。それで、では、それら重度の障がいを全て含めて何かみんな課題を出してみよう、そして、本当に広くてつかみづらいかもしれないけれども、重度と言われる方が地域で暮らしていく中でどういう課題があるのだろうか、それを各地域部会に投げかけてみましょうというのが今までの過程でございます。

新しい地域部会長はさっぱり分からないと思うのですが、これは今までの全体会の中で承認されて決まってきたことです。

○近藤会長 長い背景がある中で、つながってきているものだとということでご理解いただければと思います。その中で、課題を明確にしながら、解決すべき課題に取り組めるかどうかを確認していくという流れになるかなと思います。

お手数をおかけしますが、ご協力のほどをよろしく願いいたします。

お時間も迫ってまいりましたが、いかがでしょうか、ほかに確認事項はございますか。

お願いします。

○尾形委員 香雪病院の尾形です。

好事例集についてですが、何をもって好事例集とするかは各地域部会に一任する形でよ

ろしいのかということと、ここに挙がっている例については、例えば、実際の制度、政策に位置づけたような助動アシスタントを新設したというものから、研修会を実施したのもだったり、アンケートを実施し、その結果をホームページで公表したなど、それぞれのレベルがあると思うのですが、この中のアウトカムについても、基本的には各地域部会で判断していいのかということと、何年前ぐらいまで遡っていいのかを教えてくださいました。

よろしくお願ひいたします。

○近藤会長 事務局、お願ひします。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） 好事例集は、各地域部会が取り組む中で、これが好事例集に当たるのではないのかというものを出示していただければと思います。作成していく過程の中で、運営会議や全体会の中で共有していきながら、最終的に好事例集としてつくり上げていければと思っております。

何年ぐらいまで遡るかについては、明確に考えてはいなかったのですが、できれば最近のものの方がいいのかなとは思っております。ただ、その辺も特に決まっていますし、何年前は採用しませんということではないので、好事例集としてこれを取り上げてはどうかというものがあれば、上げていただけるといいのかなと思っております。

○近藤会長 こちらも、成果の見える化と、どう取り組めばいいのかが見えにくいという話が上がったこともありまして、こういうふうな取組をしたら見える化につながっていくのではないかと、成果が得られていいのではないかとといったものを少しずつ積み重ねていきたいと思いますという形になっておりますので、よろしくお願ひいたします。

○事務局（ワン・オール林） ワン・オール林です。

今の尾形委員の質問について、事務局の話は補足させていただきますと、好事例集をつくりたいという発端は、去年12月にあった全体会のときに、豊平区の部会長の小熊委員から好事例集をつくれたらいいよねというお話をいただいたところがスタートでした。今日の全体会で承認いただければ、この後、作業を進めていただきたいという状況になっています。

前回の全体会で小熊委員から好事例集の話題をいただいて、今日、資料でお配りしているのですが、市域の協議会については、赤枠で囲っている三つのところを好事例集化していこうということで、これは途中までつくったものでございます。当時、取組に関わられた方にも、その当時のことやその後のことなどの記載のご協力をいただきたいと思っております。

あとは、各部会のところについても、最初から一遍にたくさんつくるのは大変ですから、一旦は、赤枠のうちの二つ程度を好事例集にということで、その後、増えることもあるかもしれないという前提でできたらいいかなと思っております。

10区地域部会がありますので、各地域部会の成果の中から二つ程度については、今月、6月30日だったと思ひますが、地域部会連絡会という部会長の皆さんが集まる会があります。

ますので、そのときに、どの取組について好事例集化していくかを地区の部会長の皆さんからご意見いただきながら、詰めていけたらいいかなというところでは。

一旦、今日の資料は、前回の全体会でいただいたご意見を基に、運営会議の案として提案いたしましたので、ご了承いただければ、市域の成果の続きを作成しますし、地域については、好事例集にどの事例をとるところを地域部会連絡会で選定いただいて進めていきたいと思っておりますが、よろしいでしょうかということでございます。

○近藤会長 補足をありがとうございます。こういう流れで進んでいるということでありませう。

ほかに、いかがでしょうか。時間も迫っておりますので、よろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○近藤会長 それでは、今いただいたご意見も踏まえまして、報告させていただいた事項に関して、好事例集の作成や今後の取組について、特に、反対意見もないということを進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○近藤会長 ありがとうございます。

今、報告のあった年間活動報告書についても決定事項という形で進めさせていただいて、札幌市へ報告という形で提出をさせていただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○近藤会長 ありがとうございます。

それでは、事務局から課長にお渡しいただきたいと思っております。

[年間活動報告書の手交]

○事務局(児玉企画調整担当課長) 年間を通した活発な取組にお礼を申し上げます。どうもありがとうございます。後ほど、ゆっくり読ませていただきまして、今後の取組の参考にさせていただきたい、活用させていただきたいと考えております。引き続き、今後ともよろしく願いいたします。

○近藤会長 引き続き、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、次の議題に移りたいと思っております。

地域生活支援拠点検証委員会の設置について、お話を進めていきたいと思っております。

昨年6月の全体会で、身体障がい者・知的障がい者地域移行プロジェクトチームの終了後の取組として紹介しました内容になります。この内容について、障がい福祉課より説明をお願いいたします。

○事務局(渡辺就労・相談支援担当係長) 私から、地域生活支援拠点検証委員会の設置についてということで、資料4-1と資料4-2をご覧いただきたいと思っております。

まず、資料4-1の1の経緯・概要から説明をしていきたいと思っております。

今、お話がありましたとおり、身体障がい者・知的障がい者地域移行プロジェクトチームで、地域生活支援拠点の在り方について検討してきたところです。令和3年度から地域生活支援拠点としての事業は開始をしておりますけれども、国の第6期障害福祉計画で、地域生活支援拠点の設置とともに、各年度1回以上の拠点の検証、検討するということが明記されているところです。

札幌市におきましては、自立支援協議会で検証、検討を行うとしておりまして、昨年6月の全体会で、自立支援協議会に地域生活支援拠点の検証、検討の場を設けるということで確認されているところです。

その下に行きますけれども、今回の地域生活支援拠点検証委員会の設置は、自立支援協議会の部会としての設置基準としては満たしていないということと、有期限で設置するものではないので、プロジェクトチームにも該当しないと考えております。

一方で、国や札幌市の性格上、恒常的な会議体をつくるが必要になってきますので、新たに委員会として自立支援協議会内に設置をしたいと考えております。地域生活支援拠点検証委員会は、プロジェクトチームからの発展的な位置づけをしたいと考えております。

その下、「今年度」と書いていますけれども、これは令和3年度という意味になりますが、令和3年度は、地域生活支援拠点検証委員会の設置に向けた準備を進めておりまして、準備のための会議も3月に開催しているところです。今回、令和4年度の全体会で正式に承認が得られましたら、自立支援協議会の設置要綱を改正しまして、委員会として正式に位置づけたいと考えております。

もし正式に自立支援協議会の中で設置できましたら、参加メンバー案になりますけれども、地域生活支援拠点の機能を担う事業者の方に参加していただくことを考えております。

(1)の相談というところで、例えば、今、障がい福祉課から障がい者緊急入所受入先調整窓口の業務委託をしていますはるにれの里の方、あるいは、障がい者相談支援事業所(相談支援部会)の方から参加していただきたいと考えております。

(2)緊急時の受入れ・対応、(3)体験の機会・場、(4)専門的人材の確保・養成および(5)地域の体制づくりということで、それぞれの地域生活支援拠点の機能を担う事業者の方に参加していただいて、検証していければと考えております。

それから、3番目の報告の場については、指定特定相談支援事業所には地域体制強化共同支援加算がございますが、利用者にサービスを提供する事業所3者以上と共同して、在宅での療養上必要な説明及び指導を行った上で、札幌市自立支援協議会へ当該説明及び指導の内容等を報告した場合に算定可能となっております。こうしたことを算定する上で報告の場が必要になるということで、この報告の場としても地域生活支援拠点検証委員会がマッチングするような形でというふうに考えております。

必要に応じて、地域生活支援拠点検証委員会から運営会議へ地域課題の提出を可能とするような形にもしていきたいと考えております。

4のスケジュール案は、参考に、令和4年1月からの動きを載せております。

本日、令和4年6月というところで、今回、全体会でお話しして設置できればと考えております。

私からの説明は、以上となります。

○近藤会長 今の報告に対しまして、ご質問、ご意見等がある方はいらっしゃいますでしょうか。

よろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○近藤会長 ありがとうございます。

それでは、委員会を設置させていただきたいと思っております。

では、続きまして、情報提供をお願いいたします。

○大館委員 時間もない中、割愛しながらご説明させていただきます。毎年、このような時間を設けていただき、ありがとうございます。昨年度の活動報告と今年の方針をご説明させていただきます。私たちの事業として、1番目の直接支援ですが、発達障がいのあるご本人やご家族の方と情報整理面談をしております。ここ数年は、年間1,000件程度で推移しておりますけれども、昨年度は感染症流行の影響があって、例年の8割程度となっております。

その内訳ですけれども、児童や学齢期の方の相談というのはあまり変化がありませんでしたが、成人の方からの相談が減っています。この成人の方からの相談の主な内訳は、自分は発達障がいかもしれないとか、医療機関を紹介してほしいという相談が多いのですが、その辺が減ってきていると思っております。

2番目の間接支援ですけれども、機関支援として、事業所や企業、学校などに直接訪問して、支援者の皆さんと一緒によりよい支援を構築していくという事業をしております。こちらの依頼件数は年々増えておりまして、私たちもできる限り対応させていただいております。研修の実施は、主催研修ということで、おがる主催の研修をしております。今年度もそうですが、昨年度から、ずっとオンラインで実施しております。

講師派遣につきましては、事業所のニーズに合わせて、オンラインで行ったり、訪問させていただいて、ご依頼のあった内容で研修を続けております。

3番目の普及啓発についてですけれども、発達障がいという言葉はすごく広まって、いろいろな方に知っていただける言葉になったのですが、ただ、正しい理解、関わり方や支援方法はまだまだ不足しているところかなと思っておりますので、昨年度よりSNSやオンラインサービスを活用した情報発信を開始しております。

ユーチューブは、昨年度4月に開設して、こちらには「登録数は600を超えました」と書いていますけれども、今、チャンネル登録者数は642となっております。たくさんの方に見ていただいております。

LINEは、発達障がいに関する情報発信ということで、相談ではなくて発信をメインにしておりまして、現在、友達登録は、先ほど見たところ170ありました。

2枚目に行きます。4番の札幌市発達障害者支援体制整備事業への参画ですけれども、家族支援というところで、ペアレントプログラム、ペアレントメンターに協力をさせていただいております。今年度は、下にもあります地域支援協議会でもペアプロにかなり力を入れて取り組んでいくところになると思います。発達障害者地域支援マネージャーですけれども、平成29年度より設置されております。令和4年度、今年からは、独自に1名配置を加算しまして、3名体制で動いております。こちらのマネージャーは、障がい福祉サービス事業所や関係機関が支援を行っている発達障がいのある方への事例のうち、行動障がいなど二次障がいを併発することなどにより支援が困難な事例へ専門的な助言を行っておりますので、皆さんの関連機関でもかなり難しいケースがございましたら、ご相談いただければと思います。

最後になりますけれども、発達障害者支援地域協議会が令和2年度から発足しております。今年度、少し体制に変わっているところがありまして、毎年行っているカラフルブレインアートフェスがプロジェクトチームになっていたのですが、昨年度でプロジェクトチームを終結しまして、今年度から以前と同じように実行委員会形式に変わっております。こちらの組織は古いものとなりますので、ご了承ください。

以上となります。

○近藤会長 今、いただいた内容にご質問、ご意見等のある方はいらっしゃいませんでしょうか。いらっしゃったら、マイクをオンにして発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局（斉藤職員） 障がい福祉課の斉藤です。

難病連の増田委員から本日のご意見をお預かりしておりますので、ご紹介したいと思っております。

北海道の難病連の増田です。おがるさんの情報提供は大変参考になりました。北海道難病連では、難病を抱えるお子さんからご高齢の方まで、幅広くご相談をお受けしております。その中で、難病と併せて発達障がいを抱えていらっしゃる方からのご相談も増えていと感じております。医療面だけでなく、生活面の支援を必要とする方に対して、私も相談を受ける立場として、適切な連携先や、発達障がいに関する知識や支援方法の研修の必要性を改めて感じたところです。また、詳しくお聞かせください。ありがとうございましたということでお預かりしております。以上です。

○大館委員 ありがとうございます。よろしくお伝えください。ぜひ、ご相談いただければ、ご協力できると思います。

○近藤会長 ぜひ、多くのところと連携を取りながら進めていただきたいと思います。

ほかは、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○近藤会長 大館委員、ありがとうございました。

その他に移りたいと思います。

事務局からの連絡についてよろしくお願ひします。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） 障がい福祉課から、2点、連絡事項があります。

まず、1点目は、さっぽろ障がい者プランの提言の関係ですけれども、令和5年度に向けて新たに策定を予定しております。自立支援協議会として提言を行う場合には、今年12月頃の全体会で提言の内容について承認を得られたものを担当課にお渡しするというような流れで考えております。今後、部会の中で、提言として盛り込みたいというものがありませんでしたら、まずは事務局にご連絡いただきまして、運営会議で検討した後に、12月の全体会で委員の皆様にお諮りをしたいと考えておりますので、そういったスケジュール感についてご承知おきいただきたいと思います。

それから、さっぽろ障がい者プランに向けて、障がい児者の実態調査を予定しております。実態調査の設問項目につきまして、各委員の皆様にご7月下旬、8月ぐらいに案をお送りすることを考えておりますので、そちらが届きまして、ご意見等がありましたら、いただきたいと思います。

2点目になりますけれども、今年10月に、自立支援協議会の委員の皆様の一斉改選があります。8月をめどに、皆さんに改選をご案内いたしますので、ご対応をお願いしたいと思います。

○近藤会長 さっぽろ障がい者プランは、時期が決まっておりますので、できる限り間に合うように進めていただきたいと思います。12月頃の全体会で承認が必要になりますので、それよりも前に動いていただく形になると思います。短い期間ではありますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

最後に、今日の議論全体を通して、ご意見等がある方はいらっしゃいますでしょうか。

○小谷副会長 全体会に参加していつも思っていたことですが、自立支援協議会は、相談支援部会や就労支援推進部会、子ども部会などの専門部会があつて、10の地域部会がありますが、その中で、先ほども報告等のときに皆さんからいろいろあつたように、自立支援協議会は誰のためのものなのだと、最終的には、やはり地域に暮らす障がい当事者の課題を事業所なり相談支援事業所、各地域部会に上がってくるわけですね。

私は、障がい当事者で、肢体不自由者です。今日、傍聴している方の中で、聴覚障がいや視覚障がい者の方々が参加しているかどうかは分かりませんが、自立支援協議会は、やはり障がい者を主体として考えなければいけないと思うのです。これは、本当にこれから皆さん、札幌市の事務局の方にも考えていただきたいと思いますので、そのための情報提供として、運営会議や地域部会の中ではそれぞれでいいと思うのですが、全体会について、ぜひ最低でも手話通訳をしていただけたらいいかなと思います。

聴覚障がい者の方も、視覚障がい者の方も、本当に情報が入ってこないということが課題にありますので、その辺の検討をこれからお願ひしたいと思ひます。

○近藤会長 情報アクセシビリティについてのご意見をいただいたかと思ひます。眞摯に取り組めるように進めていきたいと思ひます。そのほか、全体を通しまして、ご意見、連絡事項等がある方はいらっしやいますか。よろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○近藤会長 皆さん、長時間にわたり、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、本日の協議は終了させていただきます。ご協力をありがとうございました。それでは、事務局にお返ししたいと思ひます。

3. 閉 会

○事務局(渡辺就労・相談支援担当係長) 近藤会長、ありがとうございました。

委員の皆様、長時間のご審議をいただき、本当にありがとうございます。

それから、本日、傍聴いただきました方、ご協力をありがとうございます。

次回の全体会は、別途、事務局から皆様の予定をお聞きして、開催日時について調整させていただきますと思ひます。

最後になりますけれども、傍聴の皆様におかれましては、意見参加シートへのご記入をいただければ、こちらで今後の会議の運営の参考にしたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、以上をもちまして、第38回札幌市自立支援協議会を終了したいと思ひます。ありがとうございました。

以 上